

噺館(はなしごや)

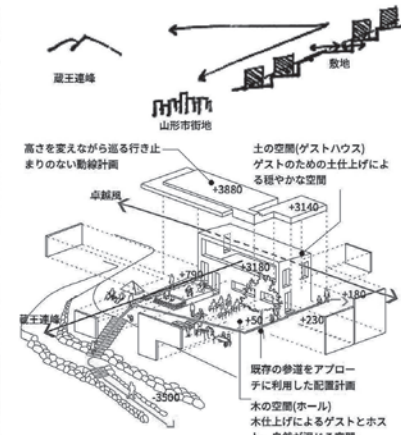
設計監理:本木大介建築設計事務所 担当:本木大介



外部と繋がる動的な木の空間。落語家、仲間、町民を交えて行われたパーティの様子



土の空間でソファに座り、静かに嵐王連峰を望む



敷地は東側に山形市内と嵐王連峰を望む山辺町のみだらな丘に位置する。古くは山辺城、神社、役場近傍の商店と利用形態を変えながら、中心、その近傍として人が集まる場所であったが、近年は役場の移転や過疎高齢化などによって、人通りが少なくなっている。定年退職を期に町を元気にする何かを始めたいという施主の思いから計画はスタートし、落語などのイベントを企画運営してきた施主の経験を活かして、イベントやパーティーが行えるホールとイベント時の楽屋を兼ねた1組限定のゲストハウスをつくることになった。ゲスト(演者)が町から安らぎを受け取り、町がゲストから元気をもらおう。異なる文化の間に新たな価値が生まれ地域の豊かさにつながっていく。そうした循環を生み出し、この土地に定着し豊かに生き続けることが計画の目的である。「この地で豊かに生き続ける」ことを支える建築を考えるとき、この地にある眺望、斜面、神社の参道、草木、土や風などの要素をデザインの拠り所としたこの地特有の個性と、加速度的に変化を続ける時代に対応できる柔らかさを兼ね備えた建築が良いと考え、宿泊・滞在のための現場の土を仕上げにした静かな「土の空間(ゲストハウス)」と、様々な使い方に対応する動的な「木の空間(ホール)」を組み合わせた構成とした。「土の空間(ゲストハウス)」は、東側の眺望の良さを生かすよう南北に長い形状とし、東側に開口部を設けた。

開口部の前方には床から730mm持ち上げた奥行き4.2mのウッドデッキを配し、視線を制御し静かに嵐王連峰の山並みを望めるようにした。仕上げは現場の土を用いた掻き落とし仕上げとし、土地に根ざした静かで重厚感のある空間を目指した。卓越風を取り入れるための小さな窓を設け、ソファやベッドの置かれる西側の南北裏側にはそよ風が流れる。「木の空間」は50人規模のパーティーから5、6人規模の料理教室まで幅広い用途に使われる。北側と東側に大開口を設け、目的・用途に応じて外部までホールが拡張できるようにした。敷地の微小な高低差や残置された神社の参道を活用した配置平面計画とし、大地に寄り添い、周辺環境に開かれた開放的な空間とした。「土の空間」と「木の空間」は近くの周辺環境と遠くの山並みを感じながら高さを覚えて行き止まりなくつながるように動線を計画し、場所を巡る空間体験が建築の個性となるようにした。完成後、地域住民が作った茅葺きパーベキュー、地酒、夜景、風とともに落語家を取り囲んでオープニングパーティーが行われた。嵐王連峰と町に見守られながら、ホストとゲスト、今と昔、変化するものとしなないもの、人と自然をおおらかに包み込む場所となり、時代を超えて笑顔とともにこの地に根付き育まれることを願っている。



東側外観



残置された神社参道の敷石を利用したポーチ



客室内観



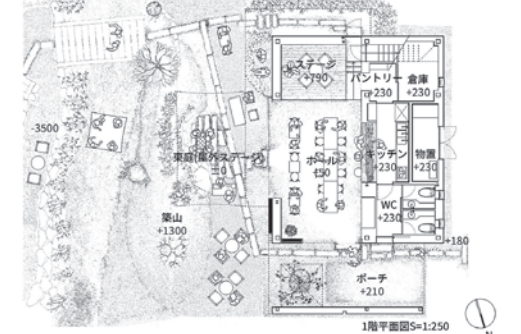
テラス付の浴室。高低差と木柵と植栽でプライバシーと開放感を確保



内外部を巡る行き止まりのない動線計画



2階平面図S=1:250



1階平面図S=1:250



卓越風を取り込む通風窓



東西断面図S=1:250



噺館を見守る嵐王連峰

[建築名称]	噺館	[建築名称]	噺館
[発注者]	峰田順一	[発注者]	カワ-GI 銅板t0.4
[用途]	簡易宿泊所	[用途]	蔵ハセ真さ
[設計監理]	本木大介建築設計事務所	[設計監理]	セランガンパツt15
[構造設計]	株式会社丹羽設計事務所	[構造設計]	杉縁甲板t12
[施工]	豊和建設株式会社	[施工]	杉縁甲板t12
[設計期間]	2018年6月~2019年10月	[設計期間]	杉縁甲板t12
[工事期間]	2020年3月~2020年8月	[工事期間]	杉縁甲板t12
[規模]	構造 鉄骨造	[規模]	杉縁甲板t12
[階数]	2階建	[階数]	杉縁甲板t12
[敷地面積]	787.81㎡	[敷地面積]	杉縁甲板t12
[建築面積]	111.67㎡	[建築面積]	杉縁甲板t12
[延床面積]	137.46㎡	[延床面積]	杉縁甲板t12
			コンクリート金コテ仕上
			栗縁甲板t15